(明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可)　(日刊月曜日及祭日の翌日休刊)　明治四十二年十月卅一日　(日曜日)　第二百五十三號　(一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●天成の外交家

京城駐在米國領事　ドモーア氏談

今を去る卅七年前歐米視察のため特派されたる岩倉公一行に從ひ伊藤公の米國華盛頓に赴きし時より公を知れる新任京城駐在米國總領事シドモーア氏は何ほ前任地神戶に駐在してオリエンタルホテルに滯在中なるが廿六日夕氏を神戶在留の外人の殆んど全部を會員とせる神戶倶樂部に訪ふ此時同倶樂部にては伊藤公橫死の報傳はり外人等は遊戯大笑を廢して悲しみ合ひ居たり就中シドモーア氏は語りて曰はく予は二三十分前に伊藤公斃れたりとの報を耳にせし時事の餘りに意外なりければ予は容易にこれを信せざりき然れども其事實なるを知りて愁嘆言辭に盡し難し抑も予が始めて公を識りしは今を去る三十七年前なりしが公は當時の兵庫縣知事の職に在りて歐米視察中なりし岩倉公の一行中にありて公は最も年少者の一人なると同時に一行の中心人物は岩倉公にて華盛頓においても表面上餘りに人の注意を惹かざりしが公と共に語りしものは何れも公が決して凡庸の人にあらざるを見或人の如きは當時既に公を以て日本將來の宰相に擬したるが果せるかな公は日本の内治外交を双肩に擔ふ人となれり予は十四年間日本に滯在し再三公と共に晚餐の席に列せしことあるが公は極めて愛嬌よく列席者をして何となく愉快なる感を起さしめたり予は此點よりして公は天成の外交家なりと云ひたる事あり然れども予等外人が伊藤公を尊敬し又た公の言を重要視したるは聰明なる皇帝陛下が公を御信賴あり公は陛下の御大心を體して内治外交に遺算なきを勉め居たる爲にして日本が外交問題に關して困難なる折衝をなしつゝある際伊藤公が日本當局の一人ならば該問題は圓滿に解決するを豫想して自ら安んじたる程なりき公の如き偉人を失ふは單に日本の損失のみならず世界の一大損失なり公の對韓政策或は一部韓人等の誤解を招きたらんも公は統監在任中も退職後も韓國の開發と韓人の嚮導のため盡し又將來もこれがため陰に陽に盡瘁せしことは疑ふべからず然るを今兇漢のため斃る韓人は一大親友を失ひたるものと云はざるべからず云々(大每所發)

●道路開鑿と土地寄附

仁川府内面議所に於ては極觀驛より牛角洞に通ずる道路を改鑿すべき計畫あり目下設計中なるが清水岩吉氏は右道路に要する地所の幾部分を寄附したりと奇特といふべし

●仁川諸官衙時間改正

仁川理事廳民役所其他諸官衙は來月一日より執務時間を午前十時より午後四時に改正

●衛生敎育會秋期總會

仁川私立衛生敎育會は來る三十一日民役所樓上に於て秋期總會を開催する筈なりと

●仁川民會の開會期日

仁川民會を來月一日午後七時三十分より開き橫山助役滿期辭任の件及び寄附金受領の件其他重要案件に就き審議する筈なりと

夫婦の要件

一記者

相抱て淵に投じて情死を遂げる迄相愛し相慕ふ男女が合衾の式を擧ぐると不思議にも三々九度の杯の香の未だ消えぬ間に早くも分れ話しとなるのは如何にも訝怪に堪へざるが如くにして實は決して然らずである、幵は一時の熱情に驅られたるに相違ないがさりとて死も尙ほ辭せずと相戀したる者が何故如斯手易く破鏡に至るかと云ふに、幵は云ふ迄もなく夫婦たるべき要件の具備して居らぬばかりでなく却て相排反する要素があるからである、性格の酷だ相似たる者は一時又た酷だ相合ひ相慕ふものなるも其れ只一時にして忽ち飽き乍ち慊らずなるものである、世間夫婦の体軀の相似ざるを夫婦の却て仕合せとするのも全く是と同樣で、痩傑の婦は肥長の夫と、醜男は美女と婚嫁するのは至極必要な條件である、然し此の形而上のみにては決して滿足すべきでなく寧ろ形而上の點に相異の點の多からんを望むべしである、即ち嗜好に性質に學識に各相異なつて居らねばならぬ、文學趣味を有する女子の文士に歸き、音樂家の藝人を娶つて失敗したる例は決して少なくない一言にして之を換ゆれば彼れに缺けて居る所は此れ之を有して居ることが最大必要であるのである、只惡姦の此が善良の此れと婚する亦た可なるかと問ふを勿れである、

鎭西八郎

第二十席

伯山改　神田松鯉口演

紀平治は再び語を發し、琉球の言語は日本に似て異なり、日をおていだと云ひ、月をつきかなしといひ、佛をほとけがなしといひ、神をかいめかなし、水をれへい、火をまつ、酒をおざけ、飯をめいし、男をたけが、女をおいなご、父をせうまい、母をあんまあ、兄をすいぎ、弟をおつとう、刀劍を抱丁、衣服をいふくと云ふ其餘は枚擧に遑あらず此の國東北は日本本土、西南は支那の福建にして太洋七日にして到るべしと云ふ、往昔神功皇后三韓征伐のとき琉球恐れて夥の貢を獻る、其後彼洲人我が硫黃島に來り、硫黃島の人も又折々彼國に到りて交易せり今は其事絶へたりと雖も尙は島人の折々渡海致す者あるとの事、然し今は丁度海上も穩かの時期なり、順風へ帆を上げなば、何日にして彼地に至り申すべし、我が君若し琉球へ渡り給ふ思召もあらば、某御案内致すべく存じ候」と辨說爽やかにイトも詳らかに申述べますれば爲朝は大いに悅び「成程其方の話しにて琉球のことは能く解つたり、左れば彼の島に到ること强ち難きにもあらざるべし、然し餘りに大勢を率ゐて往きなば却つて島人の疑ひを招くこともあらん、依つて我と紀平治の唯二人、商人に扮裝つて沖小島より便船に打乘つて彼地に渡るべし」と卷絹、練絹、高瀨の木綿などを澤山に荷造りさせ、先きに大蛇の顎より獲し珠を自ら懷にし、用意も全く備りましたから、先づ景延をば京都へ歸し、其夕爲朝紀平治の主從二人船に打乘つて沖の小島へ赴かれ此處より便船にて琉球に渡らんと致されました、勇忠國は家來を引連れ忍びやかに見送ります、恰も好し數年振にて琉球への交易船、龍王丸と云ふ大船の出帆するので是れ幸ひこ夫れに打乘つて波路遙かに漕出し給ふ、始めの二日程はまだ外洋でありませんので左程困しみもありませんが追々と大海に出るに從て波頭も荒く爲朝も大に困難したが幸に風は順にして左程の波もなく、三日目四日目よりは次第に船に慣れ給ひ熟練の水夫は風の工合海路の樣子など熟知して居るので異帆に充分風を孕ませ無事に琉球へと到着致した、固より商人の風に扮裝でありまするから島人は皆商人とのみ思つて居ります、主從は商人に打交はつて旅舘に宿し種々と彼の鶴の行方を尋ねましたが頓と手掛りがございません、其内に日數十日を空しく過しましたので其上は普く琉球國内を廻はり津々浦々を探求むるの外はないと、其支度に及び、其夜爲朝は紀平治と琉球名物の泡盛を汲交はし酬然として醉ひ前後も知らず熟睡しましたがさて翌朝になつて見ると、行李の紐が盡く解け、中なる卷絹、練絹の類を盡く盜み去られた　爲「紀平治……」紀「何御用でござります」爲「コレ見い、荷物の紐を盡く解いて中なる品を盡く盜去られた」紀「成程油斷も隙もあつたものではございません、然し此國の民百姓は至つて正直なものでございます、人の物を盜むなどゝ云ふ習俗はございません、何れ同行して參つたものが盜んだに相違ございません、兎に角宿の主に其事を申して調べさせませう」と早速旅館の主人を招びまして其次第を告げまするとの主「夫れは〳〵飛んだことでございました、手前共へは昨夜澤山の客人が御宿りになつてもう半分以上は御立ちになりましたから何うも今から一々改めると云ふわけにもなりませんが一つ斯ふなさつては如何でございます、此所から西南に當つて鶴山と云ふのがございます、其山中の洞窟に朦雲國師と云ふ道士が居られます、何でも千年以上生きて居るんださうで、まるで神樣のやうな姿になつて見るからに尊とい御方でございます、此の仙人に御伺ひ致せば何んでも吉凶、身の上、失せ物直ちに分りまする、夫れは實に不思議でございます、所が此の仙人王樣の御寵愛があり人々の尊敬

安寧秩序の維持

[illegible]……今尚飯居跳梁しつゝあるを聞き、屢々之が警告したりき、其後地方の秩序安寧を保持する能はざるなきを警告したりき、而して當局者に於ても之を認識せるにや、更に軍隊を増派して討伐に盡力し居るが如し、然れども暴徒は今尚鎮滅せざるのみならず、益々暴擧を逞ふす、現に一昨夜の如きは多數の暴徒が京釜線伊院驛を襲ひて停車場驛舍に發砲して之を燒拂ふに至る、我軍隊の駐在せる附近に迄出沒して斯る暴擧をなす、斯くては交通の安全も居住の安全も到底保持する能はざる也。

斯く際涯もなく暴徒が跋扈するに於ては地方の經營抔は思ひも寄らず、交通居住の安寧すら保持する能はずとせば、如何にして韓國の經營を進むべきか、宜しく今に於て斷然たる所置を取るべき也、元來此等の暴徒なるものが唯一片の草賊に等しきものとして輕視するは甚だ誤れるに非ざるか、余輩の見を以てすれば彼等は決して一の草賊とのみ見る能はず、必ずや其巨魁が尚ほ何處にか存在して之を煽動鼓舞するに依るものと思はざる可らず、果して然りとすれば之を鎮滅するの方法も自ら異らざるを得ず、昨今の形勢より見れば內外相呼應して排日的氣風を鼓吹しつゝあるものゝ如し、現在の儘にして從來の如く彼等暴徒を輕視するに於ては、地方の安寧秩序は全く破壞さるゝに至るべし、現に京釜線驛を襲ふて發砲するに至りては安じて交通する能はざる也、既に交通を妨害し居住の安全を保つ能はずとせば、最早決して猶豫するの時に非ず、宜しく安寧秩序を保持するに足るの政策を取らざる可らざる也。

若し斯の如き現狀を何時迄も繼續するに於ては、列國に對しては無論、韓國人に對しても帝國の威信を缺くに至らむ、帝國が韓國統治の威信よりしても暴徒を一掃して安寧秩序を確保するは最も急要の事なりとす、桂內閣は現に暴徒の跋扈は帝國の威信に關すとの趣旨を機關紙により發表したることあるに非ずや、韓國の安寧秩序を確保する爲には軍隊の增派も可也、强壓政策も可也、要は安全に韓國の經營を進展せしむるにあり。

現在今日の如く京釜線の停車場驛舍を襲ふが如く暴徒の勢ひ猖獗なるに於ては今回來遊せられたるキッチナー元帥などに對しても聊か赧顏ならざることを得ず、余輩は帝國の威信よりして是非共此際當局者の猛斷を望まざるを得ず、今日に於ては最早草賊に等しきものとして輕視することなく、一歩も假借せず斷乎たる所置を取らんことを望むもの也。

▲韓銀の創立總會　昨日午前十時より韓國銀行總會を開き松尾創立委員長より左の役員任命ありたる旨報告し議案を可決し株主より委員長に感謝の意を表し役員の挨拶ありて散會す役員氏名左の如し（二十九日夜着）

總裁　市原盛宏、理事　水越理庸、三島太郎、木村雄次、監事　濱口吉右衛門、伊藤長次郎

▲秋津洲艦の着期　伊藤公の靈柩を載せたる秋津洲は本日午後一時馬關海峽を通過し天候宜ければ豐後水道を經て一日午前九時橫須賀着の豫定なるも天候の都合にて瀨戶內海を通過すとせば一日午後四時着の豫定なれば馬關海峽通過後に非ざれば確定に至らず（同上）

▲ラ中將狩獵會中止　伊集院第一艦隊司令長官、英國支那艦隊司令長官ラムトン中將は有明灣に於て會合の上島津公爵舊領地に於て狩獵會を催ふす筈なりしがラムトン中將は伊公薨去の報に接し悼惜の餘り其招待を辭退されたり（同上）

▲首相の下坂延期　桂首相は伊勢太廟參拜の序で大阪銀行集會所の招待に應じ一場の財政演說をなす筈なりしも伊藤公薨去につき國葬後に延期さる

▲儀仗は二箇師團　伊藤公國葬執行の當日歩、騎、砲兵二箇師團、横須賀海兵團より一箇聯隊の儀仗兵を附するべく靈柩新橋着の際は十九發の弔砲を發する筈（同上）

▲久邇宮の御弔電　久邇宮邦彥王殿下には御乘船天津丸の無線電信にて伊藤公の訃音に接し哀悼せらるゝ旨御弔電を發せられたり（同上）

▲韓皇太子の服喪　韓國皇太子は伊藤公遭難薨去に就き太師の禮を重んぜられ三箇月間服喪せらるべく仰出されたり（同上）

▲國葬期日の變更　天皇陛下五日東北大演習行幸遊ばさるゝに就き伊藤公國葬は四日に變更されたり（三十日）

▲久邇宮の御安着　久邇宮及妃兩殿下には歐米御巡遊を終られ今朝橫濱に御安着御歸京あり各宮殿下以下文武官奉迎盛んなり（同上）

▲韓儲の補育總裁　は桂侯爵に任せらるべしとの說あり（同上）

▲兇漢は壯士風体　安應七はカゾリック教徒にして射擊に巧みにして暴徒を煽動せし壯士風の人物なりと（同）

▲香阪院長の榮轉　法務院長香阪駒太郎氏は大審院判事に任せられ高等官一等に叙せらる（同上）

大連電報

▲兇漢の裁判管轄　兇漢に對する裁判管轄は四十一年四月十三日法律第五十二號第三條に依り滿洲に於ける重罪事件の裁判は外務大臣より都督府地方法院の管轄に屬せしめたり其結果同法院溝淵檢察官は犯人引取の爲め哈爾賓へ出張したり（二十九日着）

▲檢事の北行見合　檢事長中川一介氏は哈爾賓へ北行す可き豫定なりしが急に見合となり遼東ホテルに滯在中なり（同上）

▲連累者三十名捕縛　哈爾賓よりの其後の報によれば昨夕迄に兇行連累者三十名捕縛されたり（同上）

▲暗殺者の審理開廷　暗殺者安應七外連累者一同の審問は關東都督府高等法院にて開廷する事に決したるが裁判長は同院判官眞鍋十藏氏に決したり

▲犯人を取戾さんとす　哈爾賓の韓人は伊藤公を狙擊したる犯人を取戾さんとし不穩の擧動あり（三十日）

歐州電報

▲博邦氏と父公爵訃　公爵令嗣博邦氏は廿七日マルセーユに上陸せりマにて父の凶報を聞きて驚愕したるが父の死は天命の然らしむる處ならんも此變事の爲對韓政策に變更なきを希望すと語れり（三十日東京經由）

雜報

●暴徒京釜線に顯はる　昨夜十時暴徒二百餘名京釜線の伊院驛を襲ひ初めに驛員官舍に發砲し後ち停車場及び官舍を燒拂ひ十二時頃散亂したり右に付大田守備隊は臨時列車を以て討伐隊を派遣したり驛員の生死不明（號外再錄）

●伊院驛暴徒（第一報）　伊院驛襲來匪賊の第一報によれば昨夜十時二十分頃暴徒約百餘名同驛を襲擊し銃聲轟々として吶聲を擧げ遂に同驛に寄せ來り停車場に放火し官舍及び大部の建物は之を破壞し逃走せり此急報に接せる太田及泥洞に在る守備隊及憲兵隊は直ちに將校以下を急派し十二時五十分發にて出發せり驛員並に保線員は十七列車の到着を待ち該車に收容されたるも列車は前路の危險を慮り深川に逆行したり深川、伊院、沃川の間は閉鎖器を破壞され

●電話器は燒失せられて不通となれり又電信も沃川以內は午前一時二十分より不通となりたるも四時十分に至り漸く應急修理を加へ開通せり而して十七列車は深川より十列車に續行して運轉し太田へ六時四十分延着せり尙は十時二十分列車は電信電話とも不通の爲め其安否不明なり（三十日朝）

●伊院驛暴徒（第二報）　伊院驛に襲來せる暴徒は曩に渡邊少將討伐の際蹤跡を失したる輩にして首領は文泰洙なる者が討伐隊とも數度の衝突を爲したる事あり其後七八月頃に至り南韓討伐の報に恐怖して智異山脈なる德裕山附近に潛伏したるが今回伊藤公の兇變に際し日韓の往復頻繁なる可きを察知し茲に鐵道線路の破壞及停車場の襲擊を企てたるものゝ如し然れば今回の兇變とは必ず連絡を有するものと察せらる

●伊院驛暴徒（第三報）　伊院驛を通過せる列車は一時不通なりしも今朝に到り守備隊警戒の下に應急手當を加へて開通せしめ又停車場は燒失せしも臨

●時建物の下に切符を發賣し居れり其他故障の箇所極力修理中なり尙ほ一時避難したる驛員は沃川の守備隊將校以下十餘名に護衞せられて伊院に歸還せり

●伊院驛暴徒（第四報）　伊院驛長岡田捨吉氏の談によれば同驛に於ける鐵道從事員は家族とも約十人の少數にして保線工夫等も其中にあり氏は同夜十時頃和服にて官舍を出で驛附近を散歩中南方より數十發の銃聲耳を劈く音ありたるに一驚しそれ暴徒の襲來よと直に驛員を沃川迄避難せしめたる後同驛を顧みれば火焰炎々として燃へ上がり見る〳〵悲慘の光景なり暴徒は昨年八月頃小井里驛を燒打せるものにして當時暴徒は南方へ逃走せり然るに今回韓南討伐の爲め彼等は巢窟を失ひ北方へ再び逃げ來りたるが思ふに其一派ならん尙は昨夜は伊院の市日にして該部落は非常の繁華を極め居たる由其他襲來の狀況は別報の如ければ略す

●天皇陛下の御答電　天皇陛下には韓帝に對し一昨二十九日午後五時左の如き御答電ありたりと承はる伊藤公薨去に就き陛下より重ねて寄せられたる親厚なる同情を謝す

●一公爵夫人の答電　伊藤公夫人は韓帝に對し左の答電ありたり重ねて御親電を深謝す

●大連同胞の憤慨　大連在住の我同胞は韓人が伊藤公を狙擊したるに對し頗る憤慨の色ありされば弔問使

●韓國産大豆の分析　（關・稅・局・調・查）

大豆は韓國の主要殘産物にして主要輸出品たり而して其唯一の輸出先たる日本市場にては需要者の批評區々にして或は滿洲大豆に比し價格高きも品質良好なりと稱するのあり或は滿洲大豆も營口より河舟豆の輸入されしときは品質粗惡なりしも近來大連より汽車にて輸送さるゝに至り品質敢て韓國産に劣らずと稱するものあり兎に角近年韓國大豆は滿洲大豆の爲め著しく壓迫を受け居るのみならず昨冬滿洲大豆の歐洲輸出開始以來大豆は世界の注意商品となりしに拘はらず未だ韓國大豆の成分を調査したるもののなかりしが今回關稅局に於て其主要産地たる永興外三ヶ所の大豆を分析し滿洲大豆と比較したるに左表の如くなりと云ふ

滿洲及韓國大豆成分比較表

産地	水分	油分	纖維	炭水化物	蛋白質	灰分
咸鏡南道永興	一〇、九九九	一八、〇〇〇	三、三〇二	二五、〇六七	三八、五〇〇	四、一三〇
慶尚北道浦項	一〇、六四六	一八、七四〇	三、〇七八	二五、三四九	三七、六三五	四、五六〇
黄海道黄州	一〇、七四七	一八、四六八	三、二六九	二四、九七五	三八、二〇五	四、四三一
京畿道長端	一〇、六二五	一九、五二四	三、三七三	二五、五九〇	三六、七五〇	四、一四八
大連	一〇、三〇〇	一九、六七〇	三、八七〇	二三、七〇〇	三八、六九〇	四、七〇〇
哈爾賓	一〇、七三〇	一八、四三二	三、七〇〇	二四、七〇〇	三八、四四〇	五、〇〇〇
韓國大豆成分平均	一〇、七五四	一八、六六七	三、三五五	二五、二四五	三七、七五六	四、三三三
滿洲大豆成分平均	一〇、五五〇	一八、五五〇	三、六六五	二三、七〇〇	三八、五六五	四、八五〇

因に大豆は普通皮の厚薄を以て品質の良否を判定す今前表によれば平均に於て各品に付き比較するも韓國産が滿州産に比し何れも纖維分の少きは即ち皮の薄きにして品質滿州産に優る證據なり又た前表平均により大豆の必要成分たる油分、炭水化物、蛋白質三者の合計を比較するに韓國大豆は八一、七滿州大豆は八〇、八にして前者の後者より多きこと九なり之れ韓國産が滿州産に比し俗に「ゴ」多き所以なり尙ほ前表に付き注意すべきは韓國大豆は主要産物の中等品を採りて分析したる由なるも滿州大豆は某會社が歐洲に販路を求むる爲め需用者に其成分を示すを目的としたるものなる由なれば上等品を分析したるにあらざるか若し然りとせば韓國産の滿州産に優ることは一層大なりと云ふべし

●各皇族統監邸訪問　永宣君李俊鎔、完順君李載完、完興君李載冕の三殿下は先般來旅行中の處今回の伊藤公遭難の報に接し匆皇歸京せられ昨夜袖を連ねて統監邸を訪ひ弔問を述られたり

●特派大使の中止　昨日の官報は號外を急發して曰く伊藤大師の喪に致祭會葬せしむとあり然るに何ぞ計らん突如として親王の特派を中止し宮內大臣閔丙奭を特使に命じ昨朝九時發の列車にて東上せしめたり今其中止の理由を聞くに桂首相より公の薨去に對し特に皇族を渡航せしめらるゝ事は辭退せられたるも親王一行の如き危險を慮り遂に大連に上陸せずして直ちに引返したる次第なりと云ふ

……薨逝に對し義親王を特派して追悼の意を表し親書を大日本國大皇帝陛下に進呈し大

●キ元帥一行　キッチナー元帥の一行は左の如し

キッチナー元帥　カルツーム子爵元帥キッチナー
サアー陸軍少將　ローリンソン
同大尉　フキツガルド
東京英國大使館派遣接伴員　陸軍中佐ボルチアー
陸軍省派遣接伴員　吉田陸軍中佐

元帥一行は長途の旅行にも不拘極めて健全にして特に元帥自身は元氣旺盛なるが如く見受けらる元帥は滿洲にては我都督府官憲の案內により旅順其他の戰場を視察せられ滿鐵車中にては不絕笠井陸軍大學教授より日淸日露戰史の說明を聞取り大に感興せられたる者の如し安東縣よりは歡迎の爲出迎へられたる明石參謀長石井統監府付武官と興味ある談話を交換され始終愉快の如く毫も長途の疲勞を感ぜられず一昨夜十時半京義線にて無事南大門着如豫定ソンタクホテルへ入られたり尙元帥には滿韓沿道に於ける我官民の歡迎特に小學校生徒の歡迎に對し一方ならず愉快と感謝の念に充つ物語らる

●キ元帥の統監邸訪問　キ元帥は三十日午前十時三十分曾禰統監を統監邸に訪ひ歸路大久保軍司令官を訪問す

●統監軍司令官の答禮　別項キ元帥訪問の答禮として曾禰統監大久保軍司令官はソンタク邸にキ元帥を訪問す

●青森勞働團移住　青森縣勞働團五十名は各自家族携帶移住勞働の目的を以て廿九日夜行列車にて黃梁津に下車したりと

●外務部長の歸任　統監府外務部長

●●●●●●●●●●

●警察官署區域表　昨日全道に於ける警察官署名稱位置及管轄區域を決定發表

●豫備金支出裁可　韓國政府に於ては家屋買收費として豫備金中より金四萬三百五十八圓支出の件昨日裁可せられたり

●李總理の歸京と閣議　李首相は光濟號より歸京と同時に各大臣を招集し何事か秘密に協議する處ありたりとしたるを以て出張先へ電報を以て通報せり

●東拓社の國葬參列員　東拓會社には故伊藤公の國葬に參列する爲め副總裁吉原三郎氏を派遣することに確定

●長野縣視察團入京期　二十九日午前八時三十分薩摩丸にて釜山に上陸したる同團体は三十日午前十時四十分の列車にて釜山發同夜入京の豫定なりし

●横山仁川助役の辭任　仁川民團横山助役は來月三日を以て任期滿了と爲りたれば明日の民會にて辭任の承認を得る由なるが氏が過る三十五年九月以來七年三ヶ月間終始一日の如く民團の爲盡瘁せる功績は甚大なるものありと云ふ

●趙農相等の出發　既報の通り趙農相は國葬參列の爲め愈明日午前渡日の途に就くる筈なるが其の隨行員として川上書記官及張秘書官の兩名隨行す

……日せしむるに及ばずと急電ありたる爲也と

●峰岸本社長出張　峰岸本社長は二十九日キッチナー元帥を京義線南川驛に出向ひ敬意を表し同夜一行と共に歸城したり

●梅田少佐の歸任　入京中の臨時派遣討伐隊副官少佐梅田岩樹氏は二十九日歸任す

●田口久盛氏入京　海軍少佐田口久盛氏は二十九日入京し三日月旅館に投宿したり

●竹間芳夫氏入京　海軍大尉竹間芳夫氏は二十九日入京し三日月旅館に投宿したり

●仁川副院長着任　仁川病院副院長村谷醫學士は一昨日着任直ちに執務せりと云ふ

●鎌田判事の出發　全州區裁判所判事鎌田三郎氏は一昨日仁川出帆木浦丸にて出發

●西林三等主計正　入京中の處一昨歸任

●專賣局技師奧氏　は二十九日退京歸東

鍋島直映氏は廿九日夜南大門着歸任せらる

近事片々

▲暴徒　京釜線伊院驛を襲ふ太田守備隊臨時列車にて討伐に向ふと偖も物騷の事じや

▲依是　觀之韓國內尙排日を煽動する巨魁各所に潛在す此際斷然たる所置を取るべし

▲伊公　暗殺も等しく此種巨魁の煽動に出るなきか見逃せば何所迄不埒の事をなすか

▲我對　韓策を進轉せしむるは祖國の輿論となる列國も亦暗に之を承認せる者の如し

▲米國　の新聞は一齊に今回の兇變は日本國民を大に憤激せしむるに至るべしと論す

▲韓國　に於ける安寧秩序を維持せんが爲に一層强壓的政策を執るべしと是至當の評

▲現在　の儘にては實際安寧秩序を保持する能はず此際是非共當局の勇斷を望むや切

▲兇行　者の巨魁として昨今目せらるゝ者は彼李範晋及李範允の徒也其他に尙あらむ

▲恐ら　くは彼等と氣脈を通じ居る巨魁が必ず潛在せむ宜しく其根本に斧鉞を下だせ

▲例の　三浦觀樹將軍曰く現狀維持か迚もヤレマイがなアとは聊か桂內閣を見縊る者

▲今回　の事件に就ては韓國の主權者が來朝して謝意を表するが當然とは祖國の輿論

▲何人　が考へても此際主權者の謝罪は當然なる如く思はる是れ文明國の禮儀ならむ

▲大朝　の天聲人語に曰く謝罪使が來るッて何處から朝鮮から匆々に來て貰ふまいと

▲朝鮮　人は暗殺が上手だッて餘り褒めたものでない其見當違が呆れるサと皮肉くる

▲實際　天聲子の言ふ如く謝罪使には好く考へて後に行て貰ひたい愼重の態度を要す

▲山縣　公には伊公の死を聞き暗然として流涕せりと五十年の親交は左もあるべき也

▲西園　寺侯政友會員を勵まして曰く決して意氣を沮喪する勿れ勇往邁進すべき也と

▲一難　を經る每に更に勇氣を益すは男子の事政友會連には果して此勇氣あるや否や

▲鶏原　君曰く伊公は常に死の覺悟あり故に如何なる處に臨むも雄氣凜然たりと云ふ

▲壯時　より幾多の危難に處したる公とては左もあるべし何れにしても偉大の人格

●宮相の親書捧呈　隨行を見合せ秘書官金東完隨行し一行は昨日午前九時南大門發列車にて渡……

●龍山通信（三十日支局報）

[illegible]……に關する居留民小林長兵衛氏の勞を多とし[illegible]……

……の當日哀悼の意を表する爲め休校する筈

●勅令三件　昨日の官報を以て左の勅令發布ありたり

一、隆熙元年勅令第四十號地方官々制中改正の件

●ラージ氏の入京　ドクトル、イー、ラージ氏一行十一名……

伊藤公爵閣下國葬參列の爲當民團及商業會議所は代表者を東上せしむる旨揭載有之候得共當民團に於ては統監府執行の追吊會に參會することに相成り如上の代表者派遣は……

[illegible]の[illegible]出發は中止せられ且つ[illegible]に就ての因み沿道の觀察使警務局[illegible]なるも宮内大臣閣内親代つて差遣せらるゝ[illegible]其他へ此旨を通知し沿道を[illegible]金演基、張寅根、李仁川の三名に[illegible]戒せしめたり

▲功勞者の表彰 [illegible]選擧に於て[illegible]議員補[illegible]候補者に推撰すべく決定せりと云ふ 龍山民團民長は小學校建[illegible]

▲小學校の休校 八日伊藤公[illegible]沿道を發す 龍山小學校は伊藤公非[illegible]

●[illegible]東京小學校長[illegible]一昨廿[illegible]

●[illegible] 一、隆熙二年勅令第四十二號官報休給令中改正の件 一、間島派遣職員廢止の件 [illegible]發布ありたり

●ラーツ氏の入京 ドクトル、イー、イー、ラーツ氏一行十一名は廿九日夜西大門着にてアストルホテルに入られたる筈なり

●取消 十月三十日付貴紙雜報欄に於て[illegible]共當民團に於て[illegible]會することに相成り如上の代表者[illegible]は事實相違に付此全文を掲げ御取消相成度此段申進候也 明治四十二年十月三十日 京城居留民團民長熊谷頼太郎 京城新報社御中

●伊院燒打の詳報

▲驛員皆無事 ▲昨日營業開始

一昨夜暴徒百餘名京釜線伊院驛を襲ひ驛舍を燒拂ひし椿事は逸早く號外を以て報道し置きしが今其筋に達せし詳報を聞くに

▲暴徒の襲來 時は午後十時二十分暴徒は四方より同驛舍を目蒐けて發砲し潮の如く寄せ來りしも元來山間の小驛とて驛員の數も甚だ少なく到底防禦の方法無きを以て無益の抵抗を爲さんより身を免かるゝの外無く暴徒は思ふが儘に

▲驛舍に放火 して其全部を燒拂ひ官舍を破壞し凱歌を揚げて散走せしは十二時頃なりしが先是暴徒の襲來するや同驛は前記の如く山間の小驛にて驛員が避難すべき地物も無く他に應援を求むるの方法も無く唯手を束ねて暴徒の毒手に斃るゝの外なしと見ゑたる其時之れぞ眞に天祐とも云ふべきは恰も暴徒の襲來に約三十分遲て釜山發列車が同驛に着せし事なり時しも暴徒は驛舍に押寄せ危險云ふ斗りなりしかば同列車は驛の手前に停車し驛員を收容し前途の運轉危險なりと認め深川驛に引返へしたり

▲討伐隊急派 此の急變永同太田に達するや太田よりは將校以下十九名、永同よりは下士卒十名各十二時五十分臨時列車を出して討伐に向ひしも暴徒は既に散亂せし後なりしと而して

▲同驛の損害 は未だ詳細を知るを得ざるも驛舍は全部燒失し官舍は內部建物を破壞し收入金は暴徒の掠奪したるの形跡あり又同驛と深川間及び沃川間は閉塞器及電話共燒失し電信は沃川以南午前一時二十分より不通となり電話器は午前四時十分手當の上開通せり尙避難驛員を收容して深川に引返へしたる列車は後發の列車に續行して運轉し午前六時四十分漸く太田に着し新義州發釜山行夜行列車は電信電話不通の爲め線路の檢檢等取調の途なく爲めに午前一時五分沃川驛を延發せり

▲驛員皆無事 眞に不意の騷動なりしも幸にして驛員家族共一同微傷だも負ひし[illegible]者無く昨日午後七時十四分より營業を開始せりと鐵道部より福井技師同地に急行せり

●本町の無理情死

▲男は即死し女は輕傷 ▲情死の原因は不明瞭

原籍鳥取縣氣高郡明治村大字松土小川薰(二三)は昨卅日午前六時卅分頃京城本町八丁目料理店富士見樓(帀長谷川滿方)二階四疊の部屋に於て同亭抱酌婦なる原籍廣島縣加茂郡太津江村番地不詳伊藤ふさ(十九)を二回目に登樓なし對手としたるが勿論兩人間には未だ左まで深密なる交情のある筈なく唯些細の感情より口論を始め薰は憤激の餘り突然ピストルを以てふさを見掛け發砲したるにぞふさは吃驚して逃出すを捕ねて三發まで放ち返す手にて自分の咽喉部を一發見事命中して即死を遂げ女は左眼下盲貫銃創輕傷を負ひ左耳朶にも多少の擦過傷を受け尙ほ拇指と食指との中間に貫通銃傷を受けたるも何れも輕傷にして午前九時過ぎ大韓醫院へ入院せしめたるが男の死體は直ちに京城憲兵分隊に於て臨檢々視の上近親の者に引渡したるが其原因に就ては何等の遺書等もなく詳かに知るに由なけれども要するに他に深き憂慮すべきとあるに相違なく唯茲に氣の毒なるは前記ふさにして同人の犧牲にならんとせしを危く逃れしは不幸中の幸なりしと樓主は語れり

[illegible]警察[illegible]なして曰く先達ても某祖公のため警察に連れ込され留置せられたる時金一圓と[illegible]祥の行衛不明となりたるが苟くも人民保護の警官がそれで能く役目が濟むのかと取止めもなき囈言をぬかし始末に了ねざるにぞ遂に南部署に引致して醉醒の上厚く將來を戒めて放還せり

●片端から韓人を殺す

▲とて仁川市中を荒れ廻る

一昨日午前十一時頃宮町派出所詰巡査見張中邦人男が斧を振り廻して市中を徘徊し韓人とし見れば誰彼れの用捨なく殺害すべしとて暴行を働きつゝありとの訴出でに接し警官は即時現場に出張して取調べたるに本人は兵庫縣生れ當時仁川新町一丁目鈴川下宿屋方止宿の山口鐵工所職人御幸瀧造(三六)と云へる者にして日本の大忠臣伊藤公がヨボ共に暗殺されしかと思へば慷慨悲憤に堪へずせめてもの思ひ遣りに韓人を見つかり次第片端し打殺して伊藤公の無念を晴らしたさが一杯……にと男泣きに泣きつゝ物語りしにはさしもの警官も怒る譯にも笑ふ譯にも行かず直に鈴川を呼出して聞糺したるに別に精神に異狀あるにはあらね共酩酊の餘り醉狂を爲せしものと判明せしが右斧は新町居住の新炭商李元根と云へる所有者に返し瀧造は說諭の上鈴川に引渡されたり

●醉漢の世迷ひ言 原籍長崎縣平民當時住所不定の煉瓦燒業浦又一(三二)は昨日午前三時過ぎ永樂町派出所前を放歌し異樣の踊を爲し通行せるを巡査の誰何して取調べたるに同人は非常に酩酊し居りて警官を

●氣發油より發火 一昨廿九日午後二時半頃龍山元町二の六四賣藥商林彌三(三一)方にて雇韓人某が氣發油を罐に詰替へ中誤つてこれを火中に取落したるにぞ何かは以て堪るべく非常の勢にて燃ね上り火は傍に置きありし氣發油の罐に移りて既に大事に至らんとせしを附近の日韓人驅着け辛うじて消止め得たるが損害は藥品のみにて價格五百餘圓に上りたり此の際前記雇韓人某は微傷したりと

●偽巡査は蒲鉾屋 仁川新町二丁目居住の蒲鉾屋樋口宇三郎と云ふは一昨日午前一時頃何處にて飲酒せしか非常に銘酊し千鳥足を踏み占めつゝ同地京町二丁目の飲食店釘丸滑七方に至り遊興せんとしたるも深夜なればこれを謝絕したるに宇三郎は大に立腹し巡査の假聲を使ひて威脅せんとしたるも何の功果なきにぞ亂暴を働き殆ど手の着け樣なきより其筋に訴出で警官出張宇三郎に對し說諭の上歸宅せしめしと

伊藤公の俗謠

左は去る四十年第二協約締結の爲め韓皇を訪問する前に作れた都々逸である

さいているのもしばしの
あいだ嵐一夜の櫻花

●梨を値切て亂暴 山口縣生れの無宿者泉吉太郎(四五)と云ふは一昨日午後十一時頃仁川新町三丁目街路にて梨を賣りつゝありし牛角洞居住の德相鄉(三〇)に對し一錢五厘の梨をば一厘に敗けよと强ひ遂には亂暴狼藉を働きしかば警官出張說諭さる

●韓人の帽子泥棒 一昨日午前十時頃仁川宮町一丁目明治屋の店頭に陳列しありたる帽子を竊取して逃走せんとするを取押へ其筋に突き出したるが此手長韓人は花島居住の沈致化(四九)と云ふ者なり

●壽座は本日開場

▲三十一日愈々初日開演

壽座に開演の福井茂兵衛、伊東文夫一派は昨朝當地に乘込み今三十一日初日開演の筈なるが初日は一般の觀物を斷り特に座主古迫氏が其知人を招待して觀覽に供する由演物はヴェニスの商人、潮、喜劇放心家の三つにして明日も同樣なり因に開演時間は每日午後三時なりと

●醉拂つて亂暴す 仁川桟嶼驛荷物運搬人河野末吉(三三)は一昨日午後十一時頃同町酒家鄭台史方にて銘酊の上亂暴して說諭

演藝

▲龍山座 明一日より新派伊井一座にて開演藝題は『戀と戀』十二場にして役割左の如し

原田勉(伊井)壯士増原傳造(伊藤)堀田孫左衛門(大川)藝妓澤吉(金澤)仲居れ新(横谷)新聞〇入(吉田)遊人駒吉(中島)壯士樋口進(村井)洋人フランクリー(久保田)壯士川口六郎(松本)矢上周(郡)馬淵操(秋山)妻政子(水野)

●若菜樓の新妓 東京府平民恒吉麓女富山わか(二六)は若照と稱し東京府平民松村はる(二六)は鶴の助と名乘り何れも昨日より新町若春樓より現はれ召に應ずと云ふ

●仁川敷島の檢梅 仁川敷島遊廓の定期檢黴を一昨日行ひたるが洗滌を要するもの二名あり高砂の濱松は入院中の處退院し朝日の鶴松は入替りに入院したりと

●本日の各教會 旭町二のメソジスト、同四の日本基督教會、日之出町の京城教會共に例の如き說教あり

吉凶鏡

本町五丁目 三一舘判斷

十月卅一日 舊九月十八日 一白友引甲子みつ

△一白● 盜難陷害防ぐべし新事見合せの事酒色を戒しむ

△二黑● 非運の日なり創始改易の事凶人より難まさるゝ事あり女色盜難避くべし

△三碧● 盛運とす旅行談判相談等効を遂ぐ散財事あり

△四綠● 槪して際昇の日なり離間中絕を畏るべし

△五黄● 業務上大に活躍を要する日なり否らざれば不良の結果あり

△六白● 小事は可大事は不可總じて舊常に携はり改易改革凶

△七赤● 平常の日なり交際上紛爭起り易し口舌の禍防ぐべし

△八白● 盜害遺失防ぐべし事の決行に他の意見を參酌すべし淺慮悔を生ず

△九紫● 厄日とす細大となく愼むべし盜難紛爭避くべし

右は槪括的判斷なり各人格別に付ては直接に同館の鑑定を請はる可し

●福井茂兵衛優(五)

▲當地壽座に出演する

或時神奈川縣警部長田謙次君が『福井怎うだ一番洋行をしては、費用は俺れが何とか方法を講じて遣るから、迚もこのまゝ內地に燻ぶつて居た處で大した活動の餘地もあるまい、それよりは海外を跋涉すれば或は面白い結果を齎すだらうから』と言つてくれましたけれ共餘儀ない事情があつて斷はつたら『なんなら探偵になつたら可からう君の銳眼を持つてすれば屹度立派な成蹟が擧げられるだらうから』との事にそれならばと承諾して千圓の手當を受取る迄は可かつたが金子は直ぐ消費つて仕舞ふ、肝腎の報告は更に仕ないので後で頗る田君の感情を害したといふ滑稽な事が厶いましたが、うれやその筈でさア警察の手元に使はれて眞面目に秘密探偵を遣るやうな柄じやないんですもの。この時から芝居に關係する迄の間は例の公開演說をやり乍ら京濱間を往來して居たので或は社會の秩序を紊すとか安寧を妨害するとかの條件のもとに幾度となく處刑を受けました、恰度箱根山の墜道のやうで明るくなるかと思ふと忽ち暗くなるといふ工合で即ち僕の監獄時代とでも言つたが適當でしやう、夫れでも矢張り新聞の方は好きでしたから色々と盡力して居ましたよ、例の『自由公論』が東京に於て新聞條令違反で禁止されたので尾君の囑托を受けて橫濱で發行する事となり初の程は却々盛大に遣つて居たが次第に財政困難となり八方苦心の矢先き縱横山が破裂したから義捐金を募集した處が社員の或者が全部掻浚らつて逃走て仕舞つた、爾れや怎れやで社會の信用を落し維持することが不可能くて村山良平君に讓つたんです、這度は後藤伯を後援として落合某が經營せる『東京繪入新聞』に關係した、この新聞は名の通り挿繪澤山で三面記事を主とした極卑俗なものであつたが私が入社して『東西新聞』と改稱し政治記事を增して所謂自由黨の機關としたのです、その頃排娼論が熾に起つた爲めに遊廓は非常の恐怖を來たし部下の各新聞に賄賂を遺はして防禦策を講じた、この事を大阪『東雲新聞』が聞き込み直に素破抜いたので僕も『東西新聞』紙上に收賄事件を鳴らした、すると夫れを讀んで大に怒り吉原の妓夫が壯士連中を雇ひ福井を叩き殺せとて各自刃物を手にして僕の跡を追掛けた、この時計りは如何な僕も弱つたが遂々逃げ隱れ辛じて生命丈けを取止めました(未完)

天氣豫報

(自三十日午後六時至卅一日午後六時)

南西の風晴

廿九日(華氏) 最高溫度 四七、八 最低溫度 三二、二

京城居留民團公文

京城居留民團告示第十四號

明治四十一年度京城居留民團特別會計漢城病院歲入出決算左ノ通居留民會ノ認定ヲ經タリ

明治四十二年十月廿八日 京城居留民團民長 熊谷頼太郎

明治四十一年度京城居留民團特別會計漢城病院歲入出決算

歲入	經常部	
第一款	漢城病院收入	金三萬六千五百八十八圓十九錢
第一項	藥價及材料費收入	金一万九千五百九十九圓五十五錢
第二項	診察及手術料	金二千〇五十六圓九十九錢
第三項	入院及賄料收入	金一萬三千七百九十六圓六十三錢
第四項	財產ヨリ生スル收入	金百三十二圓〇九錢
第五項	雜收入	金千〇〇二圓九十三錢
第二款	青坡病院費	金二千七百七十一圓五十九錢
第一項	入院料	
第二項	雜收入	
第三款	新町健康診斷所費	金四千四百七十圓六十一錢
第一項	藥價及材料費收入	金一千八百〇二圓〇一錢
第二項	診察及手術料	金二千六百六十八圓六十錢
小計		金四万三千八百三十圓三十九錢
歲入	臨時部	
第一款	基金繰入	金二千三百九十四圓二十錢五厘
第二款	雜收入	金百圓
第三款	補給額	金七千六百九十八圓九十七錢五厘
小計		金一萬〇百九十三圓十八錢
合計		金五万四千〇二十三圓五十七錢
歲出	經常部	
第一款	漢城病院費	金四萬〇四百四十三圓八十七錢
第一項	俸給	金一萬四千三百十四圓七十二錢
第二項	雜給	金九千六百三十圓〇一錢
第三項	需用費	金一萬五千六百〇九圓十錢
第四項	修繕費	金六百二十三圓〇四錢
第五項	保險費	金二百六十七圓
第二款	青坡病院費	金六千〇二十八圓七十錢
第一項	俸給	金一千二百八十圓九十二錢
第二項	雜給	金二千〇二十七圓卅三錢
第三項	需用費	金二千五百〇二圓七十錢
第四項	修繕費	金二百十七圓七十五錢
第三款	新町健康診斷所費	金三千九百八十圓
第一項	俸給	金一千六百六十三圓九十七錢
第二項	雜給	金一千百十五圓三十八錢
第三項	需用費	金一千百廿四圓五十五錢
第四項	修繕費	金七十六圓十錢
小計		金五萬〇四百五十二圓五十七錢
歲出	臨時部	
第一款	漢城病院費	金三千〇六十六圓五十錢
第二款	青坡病院費	金五百〇四圓五十錢
小計		金三千五百七十一圓
合計		金五萬四千〇二十三圓五十七錢
歲入出差引殘金ナシ		

洗濯石鹸專門製造販賣

陸軍、鐵道、鉱山、水道、湯屋、散髪、諸工業用

京城旭町二丁目
（電話九七三番）

朝日石鹸製造所

石炭木炭

歐米雜貨。食料品。和洋酒
吳服太物。時計。貴金屬
洋服。文房具。家具
金庫。煙草。牛乳

陸軍諸官衙御用達

淺野石炭部龍山代理店
龍山新市街山下町二丁目

龍山兄弟商會

電話架設中
取次電話百四十八番
電信略號リウ

荒物世帶道具一切
大阪合製白絞油和洋蠟燭
和傘岐阜提灯魚釣道具

卸小賣

地方在住の各位には御申越あり次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候尚弊店營業品目錄御入用の御方に御通知あり次第進呈申上候

荒物世帶道具
各國諸油米穀
銘酒澤龜アサヒサッポロ麥酒
並に買次業

京城本町六丁目
西崎嘉七本店
電話長二一〇電略（ニカ又はニ）
振替貯金口座東京（九四一七番）

大根大賣出

農商工部園藝模範場御拂下品
自園栽培

澤庵漬用大根
漬物用白菜

並に●鹽●糠●各種子●農具一式
例年の通り品質特撰ハ上破格廉價を以て販賣仕候間續々御用命之程願上候現品配達は來る廿五日より開始仕候追て御希望に依り漬込の御依賴にも應じ可申候

京城本町一丁目（長谷川町筋）
三輪商會
電話三八六番

開院廣告

十一月一日より開院
尙入院の需めに應す

毎日午前九時より午後四時迄診療に從事し

內科
小兒科　前仁川病院長醫學士　松村三省

外科
花柳病科　前漢城病院長ドクトルメヂチーネ　和田八千穗

同　診療時間自午後一時至同四時

眼科內科
耳鼻咽喉科　自午前九時至正午　東京醫科大學選卒業科　醫學得業士　瀧澤喜太郎

婦人科　當分毎月四回、一日、五日、十五日、廿五日　醫學得業士　赤羽學
醫學得業士　天ケ瀨健六

龍山居留民團囑託
龍山榮町（文平山麓）
龍山醫院

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す。弊場夙に此に留意し好良の食料を給す
●弊場搾取の牛乳を愛飮せらるゝ御諸君は最も滋養に富み味佳良なる牛乳を飮用し得るべし

京城本町五丁目（電四七番）
販賣元　仁川　松尾支店
京城東四軒町（電七五番）
搾取所　松尾牧場

會席御料理御一人前
肴四品付酒二本
金六十錢
すき燒其の外應御好

京城竹園町一丁目
遊樂樓
（元三遊樓跡）

開業四週年大賣出し

弊店儀御得意樣の御引立を蒙り日增しに繁榮に赴き候段難有仕合に奉存候就ては來月は恰も開業四週年に相當するを機とし平素の御愛顧に酬ん爲め一日より一週間を期し破格の大賣出を開始可仕候間續々御下命の榮を賜はり度奉希上候

百目に付き
ロース廿二錢　上等肉十八錢　鷄肉
並肉十四錢　豚肉十六錢　三十六錢

明治町一丁目
石田精肉店
電話千〇四十二番

本町一丁目たからや筋
石田支店
電話三百二十九番

蒸氣消毒
牛乳
平山牧場
京城大和町一丁目
電話一三三

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
京城旭町一丁目六十七番戸
辯護士　岡田榮
（電話三九八番）

增築落成御披露

兼て增築中の處今般落成仕候間醉樣方の御來車を奉願候　謹言

京城南山町一丁目

待合
貸席　入船

電話一一三五番

明治卅年七月創立
資本金一千萬圓

東京火災運送保險株式會社

京城代辦店　本町四丁目　山口吳服店　電話九番
事務所　京城本町二の三　電話一〇六〇番

大命薰
特約販賣　自製

漬物
味噌
醬油
製造元

京城本町五丁目
大上商店
（電話二五一番）

和洋酒、◎精酎、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕候

移轉御披露

これまでは太平町にて營業を致して居りました處が皆樣方の御引立を蒙りまして手狹を覺ゆるまでの繁昌になりましたから今回肩書の場所に移りました就てはどうか從前よりもヨリ以上の御贔負を賜ります樣偏に御願申上候

西小門通（元橫濱亭跡）
御料理　初音

日韓印刷株式會社

遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ
正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ
低廉ニ御高需ニ應ジ候間多
少ニ不係御注文ノ程希上
候

營業科目
活版、石版、銅版
各種印刷
帳簿裝釘、書籍
製本及ビ印刷
諸材料販賣

本社　京城明治町三丁目　電話三二三番
出張所　東京麴町區麴町八丁目十九番地　電話番町二九〇番

電話開通八百三十五番

唐津石炭直輸入商
並ニ平壤無煙炭あり

京城太平町一丁目九五
南大門高等女學校裏通り
近藤商店

待合

入院
隨意
京城西小門通六番戸
菅醫院
電話九六〇番

純良
消毒
檢査濟
牛乳

韓國畜産株式會社
南大門外（電話八八番）

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
仁川海岸通
電話三九番
貨物及船客取扱店
郡回漕店

釜山長崎門司神戶行
山東丸　十一月二十日午後三
大連、太沽行
高砂丸　十一月十八日正午時
大連、大沽行
山□丸　十一月九日午前四時
大連、大沽、牛莊行
酒田丸　十一月四日正午時出
釜山出帆、元山、淸津、浦潮行
立神丸　十一月十七日午後出

御注意
御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲壹ヶ年前金…
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回金十錢▲一號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人　高木久馬
印刷人　櫛久神一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社